

新教育委員に藤井義正氏を選任

市は6月7日、藤井義正氏(桑原区)を新たな教育委員に任命しました。これは、前委員の白石美由紀氏(中区)の任期満了に伴うもので、6月の市議会定例会で同意されました。任期は4年間です。また、5月20日に開催した市教育委員会で、藤本義性氏(楽音寺区)の委員長の再任と佐藤千栄子氏(生野3区)の同職務代行者の就任が決定しました。任期はいずれも1年間です。

市教育委員会は、市長が議会の同意を得て任命した5人の教育委員(教育長含む)で構成。毎

月の定例会と臨時会を開催し、学校教育の方針や教育予算案、教職員の人事、通学区など、市の実情に即した教育行政の基本方針や重要施策を決定します。

教育委員の構成

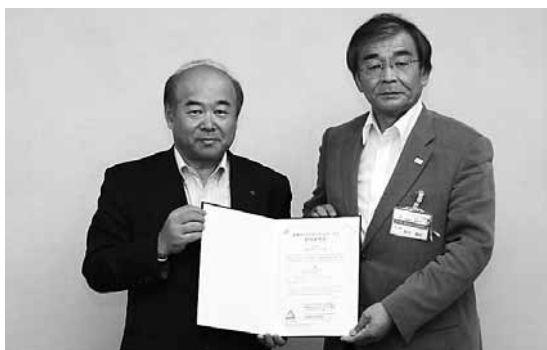
職	名氏	名
委員長	藤本義性	
委員長職務代行者	佐藤千栄子	
委員	足立弘子	
委員	藤井義正	
教育長	垣尾幸博	

(敬称略)

市の森林資源を活用

市が取り組んでいるカーボンオフセット事業を、給湯器メーカーの「ノーリツ」(神戸市)が活用することになりました。

カーボンオフセットとは、企業などが削減しきれない二酸化炭素の排出を、森林整備事業などに投資することにより相殺するもの。6月23日、多次市長から國井総一郎代表取締役社長にカーボンオフセット利用書が手渡され、市長は「地域の83%を占める山林は市固有の貴重な財産。このたびの契約を機に、一層環境行政の推進を図りたい」



利用書を手にするノーリツの國井総一郎社長(左)と多次市長

と話しました。



楽音寺所蔵の経瓦(全体)

この経瓦は楽音寺の西方(西の坊跡)から見つかったもので、現在8枚の経瓦(完形品)と64の破片が伝えられています。経瓦は約17cm四方の粘土板で、その表面(両面)に仏像30体と30字の经文(観音経)を刻んでいます。日本で出土する経瓦の大半は、粘土板に罫線を引き、お経の文字だけを書き写していますので、楽音寺経瓦のように一仏に一字を記したものは全国的にも珍しく、同じデザインをもつ経瓦は2例(京都府福知山市・豊岡市但東町)しかありません。これらにも基本的には楽音寺と同じ観音経が記されています。しかしその一方で、楽音寺の経瓦の中には同じ法華経でも観音経以外の一節が記されている

ことが最近の調査で明らかになりました。これは、楽音寺の経瓦は観音経だけが書かれているとする従来の見解を覆すものです。発見時の記録によれば、いくら掘ってもそれ以上に資料点数は増えなかつたと記されています。もしかすると、法華経全八巻を記した経瓦が但馬各地に眠っているかもしれません。

経瓦最大の特徴は地中に埋めても腐らないこと。後世に「伝える」という意味において経瓦は大変合理的なものであると同時に、作り手の弥勒菩薩への強い願いを感じずにはいられません。私たちには、作者の思いを受け継ぎ、まだ地中に眠っている経典が無事に弥勒菩薩の御手にわたるその日まで、豊かな緑とともにそとと守り続ける義務があるのでしよう。

(市教育委員会社会教育課)
※楽音寺から出土したものは「経瓦」とよばれていますが、学術的には「瓦経」と記します。ただし文中での混乱を避けるため、今回は経瓦と記しています。